向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.4　2013 年 3 月 1 日発行

上野上空から東京大学、小石川植物園を望む 加我君孝氏（国際医療福祉大学三田病院教授）撮影・提供

出土した小銃の弾丸

射場の位置

向ヶ岡弥生町の警視庁射的場

東京大学本郷地区と浅野地区に挟まれた長方形の住宅地は明治時代、向ヶ岡弥生町に建設された警視局（以下警視庁）の射的場で士族の反乱鎮圧などを目的に、当時の内務卿　大久保利通、初代大警視（警視総監）川路利良が中心になり建設を進めました。射場は幅 50 メートル、長さ 300 メートル、射場の西・北・東側に被弾を防ぐ防護壁（弥生美術館で約 8 メートル）を掘削土で築き、周辺に関連施設が建設されました。射場南側に「発射場」、浅野地区武田先端知ビルの西側に的を設置した「監的壕」がありました。射的場は上野の射的場の代替施設として、明治 9 年（1876 年）建設を開始、明治 10 年（1877 年）1 月から警視庁関係者の「狙撃演習」が開始されます。2001 年の東京大学工部武田先端知ビルの発掘調査で「監的壕」出入口などから着弾によって変形した弾丸が出土しています。

上野の射的場は、明治 7 年（1874 年）から「狙撃演習」を開始します。射的場は仮の射的場で、明治 6 年（1873 年）上野山内は公園に指定されたため、移転を前提に上野山内の旧輪王寺宮地跡、文部省用地に建設されます。演習開始直後から周辺住宅への被弾被害があったのと、明治 10 年（1877 年）内国勧業博覧会の開催が決定されたことから、射的場は明治 9 年（1876 年）演習を終了、向ヶ岡弥生町へ移転します。向ヶ岡弥生町が建設用地に選定された理由は、陸軍省用地、文部省用地、東京府用地で住宅地への被弾被害の心配がない、建設予定地は旧加賀藩邸側と旧水戸藩駒込邸側の台地に囲まれた谷で天然の防護壁となる、この 2 点が選定理由と考えられます。明治 9 年（1876 年）建設予定地が警視庁用地となりフランス式の射的場建設を開始、翌年の 1 月から「狙撃演習」を開始します。射的場に適した地形である半面、谷の掘削に伴う湧水、周辺の雨水が集まるという水問題によって工事は難航したと考えられます。「急築」を目指しますが、建設中に神風連の乱、秋月の乱、萩の乱が勃発、射的場完成まで 8 ヵ月を要しました。演習開始直後の明治 10 年（1877 年）2 月、薩摩軍は熊本へ進軍を開始、西南戦争が勃発します。3 月、川路利良は陸軍少将兼大警視として、別働第三旅団長を率い西南戦争へ派遣されます。九州などに派遣された警視庁関係者 9,500 名の中に、上野と向ヶ岡弥生町の射的場、東京府各地の練兵場で演習を行った関係者が含まれたと考えられます。

西南戦争終結後の明治 11 年（1878 年）2 月 17 日～19 日、射的場で警視庁の射的会が開催されます。水戸藩駒込邸の御殿は撤去されていましたが、庭園の再整備が行われ警視庁の「弥生舎」を建設、不忍池と上野の岡を借景した庭園が復活します。後に明治天皇を招いた天覧射的会は少なくとも 6 回行われ、「弥生舎」は表彰式会場になります。また、警視庁の法律勉強会、劇剣大会、社交会などが行われます。警視庁用地の射的場部分は宮内省用地となり、すぐに宮内省用地のまま薩長土肥等の要人が発起人を務めた民間の「東京共同射的会社」射的場になります（現、社団法人日本ライフル射撃協会）。明治 18 年（1885）年、浅野地区工学部 9 号館辺りに警視庁の「弥生神社」（現、「弥生慰霊堂」田安門横）を建設、川路利良等の警察功労者、殉職者が合祀されました。社会情勢の変化に伴い射的場を含む敷地の役割は多様化、都市化に伴い明治 20 年（1887 年）、「弥生神社」は芝公園、明治 21 年（1888 年）、「東京共同射的会社」（後に「日本帝国小銃射的協会」に改称　現、大森テニスクラブ）は大森へ移転します。両用地と東京府用地の一部は段階的に浅野家の敷地となり現在に至ります。

参考文献

東京大学埋蔵文化財調査室 2009『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書 9　東京大学本郷構内の遺跡　浅野地区 I』

射的場の監的壕の出入口

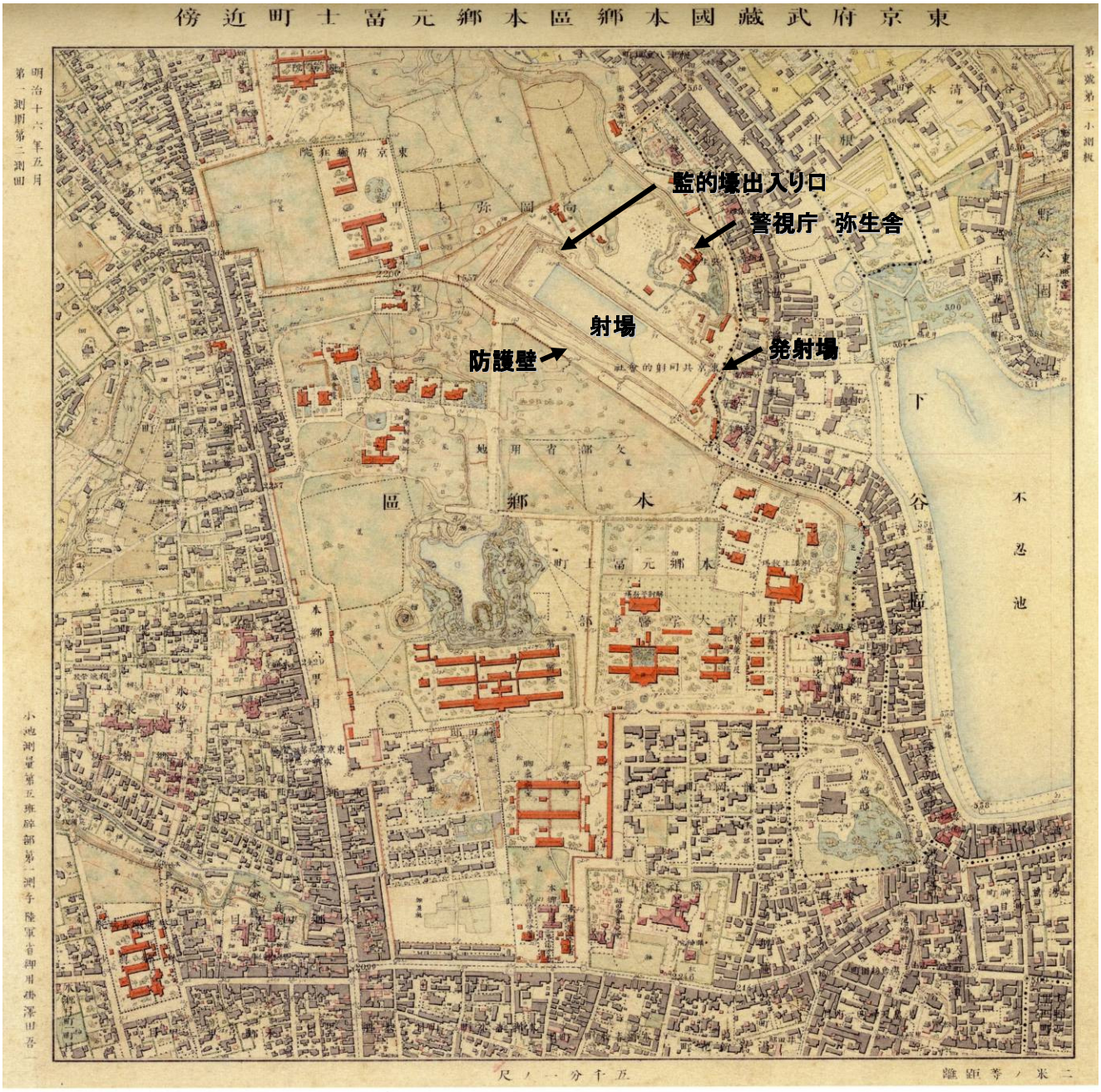
遺跡の公開 2001 年 7 月 19 日

大森テニスクラブ駐車場内
「日本帝國小銃射的協會跡」碑

東京大学浅野地区工学部武田先端知ビル地点 （2001 年調査）

田原坂（熊本市北区植木町 2008 年 6 月 13 日）

「大警視川路利良誕生地之」碑（鹿児島市皆与志町 同年 6 月 14 日）



国土交通省国土地理院所蔵、財団法人日本地図センター発行 2011『参謀本部陸軍部測量局　五千分一東京図測量原図』

明治 16 年（1883 年）の向ヶ岡弥生町と周辺

【向ヶ岡弥生町　石碑探訪】東京大学医学部戦没同窓生之碑

「東京大学医学部戦没同窓生之碑」は弥生美術館前の歩道に建立されています。碑は満州事変、日中戦争、太平洋戦争で戦死した東京大学医学部同窓生の哀悼碑で、ブロンズのレリーフは戦没者を担いで歩く同窓生がモチーフになっています。碑に戦没者 209 名（後に追加）の氏名と戦没地が刻まれています。昭和 28 年（1953 年）、東京大学医学部卒業の二宮陸雄先生が中心になり同級生とともに東京大学医学部戦没同窓生追悼基金を組織し、戦没者と戦没地の調査を行いました。戦後最初の総長 南原繁先生の戦没学徒哀悼の志を承け、弥生美術館創設者　鹿野琢見氏の協力を得て東京大学医学部鉄門倶楽部有志が 2001 年に建立しました。碑の建立に合わせて戦没同窓生追悼の『春来たり花は咲けども』が刊行されました。

東京大学医学部戦没同窓生之碑

参考文献

「東京大学医学部戦没同窓生之碑」解説、白井厚 2012『大学における戦没者追悼を考える』慶應義塾大学出版会

【新聞記事から】学生街今むかし　本郷周辺（東京都文京区）　上

2012 年 11 月 26 日、日本経済新聞朝刊より抜粋

「「こちらが赤門。東京大学本郷キャンパスは加賀藩江戸藩邸の上屋敷があった場所です。」。今夏、徳川ミュージアム（水戸市）の博物館ボランティアを務める 10 人ほどの一行が東大を訪れ、大学の象徴的存在として知られる赤門を見上げながら、其の歴史や由来の説明に聞き入った。案内役を務めたのは東京大学埋蔵文化財調査室助手の原祐一さんたちだ。（中略）

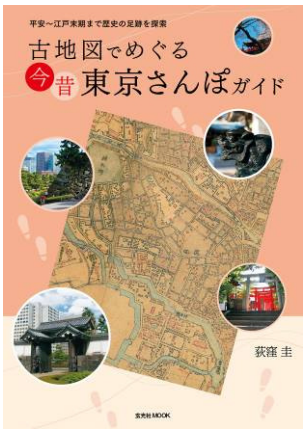
本郷キャンパスでは、大学創立 100 周年事業に伴って 1980 年代に本格化した発掘調査が今も続き、見学会が随時開かれる。歴史ガイドの依頼も多い。徳川ミュージアムの一行は本郷北側の弥生・浅野地区も訪れた。弥生土器ゆかりの地である農学部一帯は、かつて水戸徳川家の江戸中屋敷だった。「水戸黄門こと光圀が『大日本史』編さんを始めた地で、江戸末期の齊昭の頃に茶の試験栽培に取り組んだ記録もある。今も昔も学問の地だったようですね」と原さんは説明。水戸ゆかりの場所だけに、一行は感慨深げだった。齊昭が建立した「向岡記」の石碑が浅野地区に移転・修復され、往時を伝えている。碑に刻まれた「夜余秘」は弥生の地名の元にもなった。向ヶ岡弥生町会の角田昌子会長は地元を知るきっかけにもなっている」と強調する。」取材・執筆　河野俊氏（日本経済新聞社）

BS ジャパン「空から日本を見てみようプラス」

2013 年 2 月 12 日 20 時に放送された BS ジャパン「空から日本を見てみようプラス　東京の過去・現在（2）」で向ヶ岡弥生町の警視庁射的場を“くもじい”に説明しました。

番組ホームページ http://www.bs-j.co.jp/sorakara/index.html

“くもじい”と“くもみ”来ませんでした



【向ヶ岡弥生町の本】

荻窪圭 著『古地図でめぐる今昔 東京さんぽガイド』（玄光社 MOOK）

1,500 円＋税　株式会社玄光社 2013 年 1 月 15 日発行

散策の携帯にちょうど良い大きさの本です。見開きで散策ポイント・コースを示した明治時代の地図と現在の地図、次のページから散策ポイントの写真と解説が分かりやすく書かれています。弥生町が紹介されている「ルート 02　【上野】―上野と不忍池と弥生」は、一．彰義隊の碑、二．清水観音堂、三．摺鉢山古墳、四．穴稲荷と五条天神、五．不忍池と弁財天、六．上野東照宮、七．藍染川跡を発見、八．弥生土器発祥の地と弥生二丁目遺跡、九．境稲荷、十．無縁坂、十一．湯島天満宮以上 11 ポイントが 6 ページにわたって解説されています。浅野地区の方形周溝墓、こういった本でもなかなか紹介されない境稲荷が解説されています。

画像提供　株式会社玄光社

昨年、向ヶ岡弥生町会は町名由来のパネルを町内各所に設置しました。

謝辞　本号では加我君孝氏に写真提供と医学部慰霊碑の件でお世話になりました。

向ヶ岡弥生町
News Letter
VOL.4　2013 年 3 月 1 日発行

発行　原　祐一
連絡先　〒153-8904
東京都目黒区駒場 4-6-1　東京大学埋蔵文化財調査
携帯　080-5504-9782
メール　y-hara@dolphin.ocn.ne.jp
印刷　株式会社　芳文社
〒194-0037
東京都町田市木曽西 2-3-14　電話　042-792-3100